

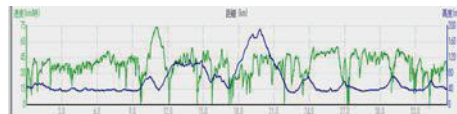
地理空間情報を活用した位置情報サービスの開発

リモートセンシング、衛星測位、レーザ計測、地理情報システムなど地理空間情報に関する要素技術は、ネットワーク、スマートフォンなどICT技術と伴に進歩を遂げている。現在それらを利用した高度な応用技術が求められており、新たな位置情報サービス産業が創出されることが期待されている。

本研究では主に次のテーマの研究を進めている。

- 衛星測位を利用した改造電気自動車(コンバートEV)の評価
- 拡張現実(AR)を利用した新しい情報提供ツールの開発
- 準天頂衛星みちびきを活用した位置情報サービスの提案
- 無人ラジコンヘリ(UAV)を利用した環境調査
- 人工衛星画像を利用した環境評価

EVは走行距離の短さが最大の欠点でありそれを衛星測位を利用した評価システムの開発。
スマホを利用した観光ARシステムの開発。UAVによる高精度な環境調査法の開発。



衛星測位を利用したEVの性能評価



AR観光システム



UAVによる環境調査

地理空間情報を活用したさまざまな応用システムを開発し、新しい位置情報サービスを提案したいと考えております。お気軽にお問い合わせください。



徳永 光晴 教授

学部：環境・建築学部 学科：環境土木工学科
所属研究所：地域計画研究所
博士(工学)。東京大学講師を経て、平成14年本学助教就任。平成19年現職。

Keyword

地球環境・地域環境 / 街路樹・農地の植生モニタリング

リモートセンシング・地図 / 3次元都市モデル / 土木構造物のメンテナンス